
甘 い キ ス

紅満 絢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

甘いキス

【Nコード】

N4543J

【作者名】

紅満 絢

【あらすじ】

2人だけの、淡い秘密の恋なんだ…

あたしの彼氏は「銀魂高校」って所の国語担当教師

学校こそ違うけど 友達の伝えていつの間にかカレカノと呼ばれるようになったあたし達

勿論、秘密の恋であることに変わりはない

だって…まずいっしょ？

いくら学校違うからって あたしみたいな一般高校生と教師って…
だから、秘密の恋

二人だけの、淡い秘密の恋なんだ…

「銀八!!」

いつもの待ち合わせ

それは放課後、裏昇降口の前での短い待ち合わせ

「おー桃 早かったな」

「うん！今日はHRが早く終わったの」

「そっか んじゃ、久々に飯でも食いに行くか？」

「え…いいの?!」

「おーよ 銀さん給料入ったばかりだし？ 桃も頑張ってるしな」

「えへへ やった」

いつもなら仕事やら金欠やらでろくにデートも行けないからこう言うほんとに時々のはいつも倍嬉しい!!

「どこ行きてエ？」

「うーん…そうだな 豪華にイタリアンとか…」

「やっぱここは王道で甘味だよな」

「え…？」

そうなのか…？

「桃も甘いもん食いてーだろ？」

「うん！」

甘いものは勿論好きだけど

何より桃は銀八と一緒にいたいよ…

「んじゃ、もう少し待ってる 仕事終わらせてくつから」

「うん 待ってる」

そう言い残して行った銀八の大きな背中を見送る

…もう1時間くらい経ったかな…？

銀八遅いよお…

なんか外が寒くなってきたし…

しゃがみ込んでいるとポケットに入っていたケータイの震えがメールを知らせてくれる

件名は銀八。

本文はー…

『うしろ』

うしろー…？

慌てて振り返るとそこには木にもたれかかり立っている銀八の姿
あたしに気が付いた銀八は、やる気のなさそうな笑顔で手をひらひら振ってみせる

「銀八、お仕事は？」

「銀さん可愛い桃ちゃんのためにマッハで終わらせてきましたぁー」

銀八の少しふざけた口調に「くすっ」と笑がこぼれる

「もう… 銀八ってば」

でも…寂しかったよ

1時間も一人で

なんとなく、銀さんの腕に自分の腕を絡める
すると銀さんは一瞬あたしの腕を振り払う

でも寂しいなんて思わず

そつと肩を抱き寄せてくれる

「あつたかい」

「だな」

「銀八」

「ん？」

こんなに抱きしめられたら
気持ちが抑えられないよ…

「大好き」

「桃」

「ん？」

声を出す前に、唇が触れる
チュって 触れるだけのキス

すぐに唇が離れて 顔がりんごみたいに真っ赤になる

「お前 可愛すぎ」

「…っ」

「ほんと、反則的だよな」

そっとう銀さんと顔を見つめ合わせて

二人で微笑んだ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4543j/>

甘 い キ ス

2010年10月21日23時00分発行